

令和6年度 林業普及週間現地情報（7/1～7/5）

森林管理課

森林病虫害の調査について

7月2日（火）

令和6年6月4日（火）に宮古島内における森林病虫害の調査を森林資源研究センター及び宮古島市と行った。調査はリュウキュウマツのマツ材線虫病とアカギのアカギヒメヨコバイによる被害を対象とした。

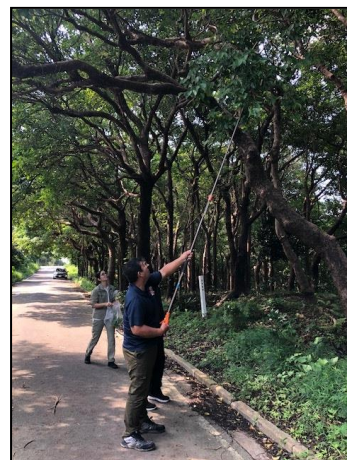
マツ材線虫病に関して、宮古島内では平成初期にマツノザイセンチュウによる被害が多く確認されており、その後の徹底した防除の結果、現在、病原であるマツノザイセンチュウは生息していない（媒介者であるマツノマダラカミキリは生息している。）。アカギヒメヨコバイによる被害に関して、宮古島内での発生報告はないが、沖縄本島ではアカギの落葉や葉変色、アカギヒメヨコバイからの分泌物による茶褐色の沈着汚れといった被害が報告されている。両者とも沖縄本島では甚大な被害をもたらしており、宮古島においても早期発見・早期対策が必須となっている。

今回の調査では、枯死したリュウキュウマツの材片の採取とマツノマダラカミキリの捕獲、アカギの葉の採取を行った。リュウキュウマツについては3地点で枯死木の材片を採取したが、マツノマダラカミキリの捕獲には至らなかった。アカギについては市のアカギ造林地において、5本のアカギから複数枚の葉を採取した。

それぞれ採取した材片及び葉は森林資源研究センターにおいて病原の有無の確認を行った。マツノザイセンチュウは検鏡および Lamp 法による検定、アカギヒメヨコバイは検鏡による寄生の確認を行い、7月2日（火）にその結果報告があったが、マツノザイセンチュウは陰性、アカギヒメヨコバイの寄生も確認されなかった。



リュウキュウマツ枯死木の材片の採取



アカギの葉の採取

（報告者：宮古農林水産振興センター 仲宗根）